

# 福島県海浜青年の家

## 第1節 概要

福島県海浜青年の家は、恵まれた自然環境の中で、青少年たちの集団宿泊研修活動をとおして、規律・協同・友愛・奉仕の精神を体験的に会得させ、心身ともに健全な青少年を育成することを目的として、昭和50年4月に開設された県の社会教育施設である。

上記開設の趣旨を踏まえ、次のような教育目標を掲げその達成に努めてきた。

- (1) 規則を守り、規律ある態度を養う。
- (2) 相互の連帯意識を高め、協同の精神を培う。
- (3) 人格を尊重し合い、友愛の精神を培う。
- (4) 勤労と責任を重んじ、進んで奉仕する態度を養う。
- (5) 心身をきたえ、自己を高めようとする意欲を育てる。

## 1 役員及び職員組織

### (1) 理事・幹事 (表1)

役職	氏名	所属
理事長	渡辺 忠男	福島県教育委員会教育長
副理事長	新妻 威男	福島県総務部長
専務理事	濱名 光春	福島県海浜青年の家所長
理事	砂子田敦博	福島県教育庁教育次長
理事	今野 繁	相馬市長
理事	鈴木 完一	福島県社会教育委員会議議長
理事	太田 緑子	福島県青少年教育振興会長
理事	片岡 義和	福島県教育庁社会教育課長
監事	市橋 保彦	福島県総務部財政課長
監事	佐々木恒雄	福島県教育庁参事兼財務課長

### (2) 運営委員 (表2)

氏名	所属
◎佐藤 栄	相馬市教育委員会教育長
○杉内慶夫	原町市立原町公民館長
藤川光紀	福島県青少年婦人課長
七島 征	福島県教育庁社会教育課主幹
荒 武治	福島県立相馬女子高等学校長
荒 薫	相馬市立中村第一中学校長
太田 豊秋	福島県青少年団体連絡協議会顧問
田中俊英	相馬青年会議所副理事長
加藤桂子	(利用者代表)
先崎貞臣	( 同 )

◎印 委員長 ○印 副委員長

### (3) 職員組織

(表3)

職員	所長	次庶務課長	指導課長	主事	指導主事	副保健技師	主任用運転手員	計
数	1	1	1	1	4	1	1	10

## 2 平成3年度重点目標と成果

### (1) 研修内容の充実

#### ① 青少年団体の利用促進と研修の充実

- ア 青少年団体の利用を促進し、研修活動をとおして青少年の「社会参加意識」の高揚を図った。
- イ 多様な研修のねらいに応じられるよう、研修プログラムを工夫し、研修内容の充実を図った。

#### ② 学校団体の研修の充実

- ア 利用団体が、自主的・主体的な研修活動が進められるよう、学校との連絡を密にし、適切な指導援助に努めた。

- イ 指導資料の整備と効果的な指導援助を行い、各団体の研修のねらいの達成に努めた。

#### ③ 広報活動の充実と各種団体の利用拡大

- ア 「所報」の効果的な活用による施設の紹介を進めるとともに、社会教育関係機関・団体との連携を密にしたりしながら利用の啓もうに努めた。

### (2) 主催事業の効果的運営

#### ① 主催事業の重点的運営

- ア 主催事業を次の三つとし、重点的に運営した。

##### ア 集団宿泊指導担当者研修会

(5月・6月・2月の3回実施)

##### イ 親と子・海浜のつどい (7月に実施)

##### ウ 高校生・海浜のつどい (8月に実施)

#### ② 事業内容の工夫・改善を啓もう

- ア 事業のねらいに即した内容を計画し、魅力ある活動になるように努めた。

- イ 前年度実施の反省・評価を踏まえ、内容方法等の工夫・改善を図った。

- ウ 各学校・各種団体に対し、積極的に啓もう活動を進めた。(特に、高校生・海浜のつどい)

### (3) 現職教育の計画的推進

#### ① 所内研修の充実

- ア 実地踏査・実技研修等を計画的に行い、指導に精通するように努めた。

- イ 各種研究協議会・研修会等に参加し、指導力と資質の向上に努めた。

- ウ O A機器の活用に精通し、事務の能率化を図った。

#### ② 施設機能充実等の研究

- ア 他社会教育施設等を視察し、本施設機能の充実に生かした。